

[年度]平成21年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名]野生イノシシに対する忌避資材の効果

[要約] 臭いや味による5種の忌避資材は、イノシシに対して全く効果を示さない。点滅ライトはイノシシに対して忌避的な影響を与えることができるが、その持続期間は短く効果は十分ではない。

[キーワード] 獣害、対策、防除、イノシシ、忌避

[担当機関名] 果樹試験場 環境部

[連絡先] 電話 0737-52-4320

[部会名] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

忌避資材については半ば迷信的に伝聞されているものも多いが、効果の検証が実施されていないため、農業生産の現場で混乱が生じている。ここでは和歌山県カンキツ生産地域のエサ条件下において、野生イノシシを対象に県内で効果があるといわれている各種忌避資材（表1）の効果について検証する。

[成果の内容・特徴]

1. テンダイウヤク、サンショウ青果粉砕物、アリルイソチオシアネート、ヒトデサポニン、トウガラシエキス+木酢液については、イノシシの出没から供試果実の採食が終了するまでの経過時間が0.02~0.6時間で、忌避効果はないと考えられる（図1）。また、それらによって刺激を受けたような行動や、忌避行動は全く確認できない。
2. 点滅ライトについては、設置当日は8頭中の1頭のみ接近するが、それ以外は接近しない。出没したイノシシは明らかに警戒しており、何かの刺激で逃げ出すなどの行動をとる。設置翌日になると数頭が接近したまま採食し続け、忌避効果はなくなる（図1）。点滅ライトはイノシシに対して忌避的な影響を与えることができるが、その持続期間は短く効果は十分ではない。

[成果の活用面・留意点]

1. 点滅ライトのみがイノシシに対して忌避的な影響を与えることができたが、効果の持続期間は約1日と短い。その効果は、点滅する赤色光によるものか、異物があることによるものか、両方によるものかは判別できない。今後、イノシシの生態に基づく装置の改良が必要と考えられる。
2. その他の忌避資材についても、忌避効果を検証することが重要であると考えられる。

[具体的データ]

表 1 供試資材と設置状況

資材名		設置		使用果実	数量	設置方法
		年月日	時間			
テンダイウヤク	クスノキ科樹木、シカ食害を受けていないことから獣類に対する忌避効果があるとの噂が県内で拡大。	2009.4.20	16:30	ハッサク	12個	テンダイウヤク鉢植え 叢生幹内に果実を配置
サンショウ青果粉砕物	産地が近いため、入手が容易な刺激物	2009.4.23	13:07	不知火	7個	果実内の空隙に充填
アリルイソチオシアネート	試薬(ワサビ、カラシなどの辛み成分)	2009.4.23	13:07	不知火	1個	果実内に注射器で注入
ヒトデサポニン	発酵臭による忌避効果があるとのこと	2009.5.8	15:30	不知火	5個	果実に塗布
点滅ライト	ホームセンター等で販売されているもの 赤色光(LED) 19時20分より点滅開始。	2009.6.2	18:00	ハッサク等 晩柑類	約50個	廃棄果実塊の中心に設置
対照(点滅ライト)		2009.6.2	18:00	ハッサク等 晩柑類	約50個	廃棄場所内で点滅ライト設置場所から最も遠方(約4m)に配置
トウガラシエキス+木酢液	トウガラシの味覚と、木酢液の嗅覚に対する刺激による忌避効果	2009.7.23	17:04	不知火	8個	布に含浸させ果実上に吊した(布と果実間は50cm)
対照(トウガラシエキス+木酢液)		2009.7.23	17:04	不知火	8個	布のみ果実上に吊した(布と果実間は50cm)
トウガラシエキス+木酢液	トウガラシの味覚と、木酢液の嗅覚に対する刺激による忌避効果	2009.7.24	10:30	不知火	5個	果実に塗布

※ 資材と果実はイノシシの出没が常時確認されている一定の場所に設置し、  
赤外線センサーカメラ (Game Spy I40、Moultrie Feeder 社製) により観察を実施

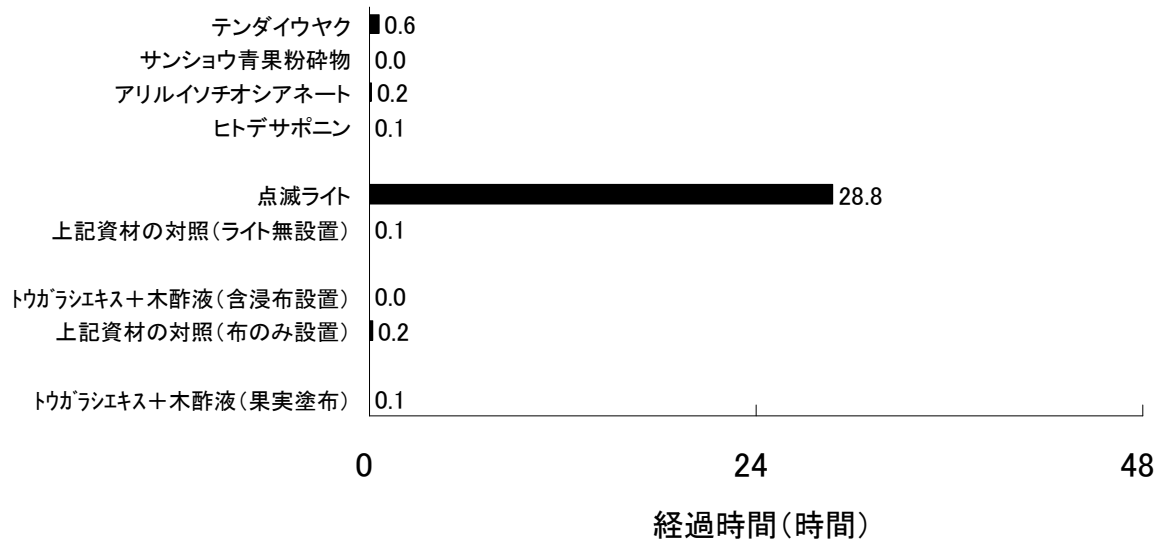


図 1 イノシシの出没から採食までの経過時間

- ※ 点滅ライトとその対照以外は、出没から採食終了までの経過時間
- ※ 点滅ライトとその対照は供試果実数が多いため、出没から継続して採食し始めるまでの経過時間
- ※ 忌避効果のみられた点滅ライトも、持続期間は短く効果は十分ではない

[その他]

研究課題名：農作物鳥獣害防止技術実証

予算区分：県単

研究期間：平成 21～23 年度

研究担当者：法眼利幸、横谷道雄、山本浩之、井沼 崇、増田吉彦

発表論文等：なし

HP 掲載の可否：可